

神森 激闘の2連戦切り抜ける

県中学新人ハンド

ハンドボールの第15回浦添市長杯争奪第46回県中学新人大会は12日、浦添市民体育館で男女の決勝を行い、男子は神森が29-22で仲

神森(男子)、仲西(女子)栄冠

西を下し、2年連続17回目の栄冠を手にした。女子は仲西が18-15で美東に競り勝ち、3年ぶり9回目の頂点に立った。男女優勝チームは第14回春の全国中学生選手権大会(3月、富山県)に派遣される。男女4強の中で、1位を除く3チームは後日代表決定戦を行い、上位2チームが全九州選抜大会(3月、長崎県)に派遣される。

ハイライト

県選抜チームを含め、全国3冠を成し遂げた先輩らに続けと、「新生神森」が進決勝の沖繩東、決勝の仲西と、激闘の2連戦を切り抜け、春の全国選抜大会への切符をつかみ取った。粗削りなプレーもあったが、個々の気迫あふれるプレーが優勝の原動力となった。

ヤマ場となった沖繩東戦は1年生GKの石田龍ノ介、山川純平、久貝駿太の3選手の好セーブもあり26-25で乗り越えた。やや疲労を残して臨んだ決勝。仲西のクロスプレーを止められず、パワフルな相手エースに守備間を振り切られた。それでも「今日は驚くくらいシュートが入った」という本永光と田場心大が体をねじ込んでミドルやロングでやり返して12-12で後半へ。

接戦が続く中、踏ん張ってきた東江慶主将に疲れが見えた21-20の場面、1年の洲鎌史成がセンターとして登場。身長158センチと小柄だが「逃げたら負け」と小さなシ



男子決勝 神森一仲西 前半、高い打点からシュートを放つ神森の外間大心=12日、浦添市のANA ARENA 浦添 (田中若攝影)

気迫原動力、全国つかむ

ヤンプで相手ブロックを上げさせた瞬間、脇を射抜く大胆なフラインドシュートで得点

会場のごよめきが収まらないうち、次は左45度の1対1か

らわずかな守備間を跳び抜け

友利彬彦監督も仲西のコーチ

間大心も守備では人一倍体を張り、速攻時には「相手GKの心を折る」として、勢いあ

るパワフルシュートを放ち、計6得点を挙げ殊勲者となった。全国選抜大会への道をつか

男子	女子
神森 26 仲西 35 沖繩東 28 神森 29	仲西 24 美東 23 神森 21 仲西 18
1511 1916 1117 1712	915 1211 1229 1088
25 29 21 22	15 16 17 15
仲西 東風平 東風平 仲西	南風原 神森 南風原 東

後半、足が止まった
男子・仲西のエースの1人、島尻漢太の話 全員で

守備連係で流れ手中に 仲西

積極的にシュートにいける時間帯もあったけれど、後半は神森の守備の前に足が止まってしまい、リズムをうまくつなぐことができなかった。

逆速攻をやられた
女子・美東の名嘉陽菜の話 後半途中からミスで逆速攻をやられてしまった。攻撃も仲西の守備の間を割れず、シュートを打たされる場面が増えてしまった。個々のレベルを上げる。

着実に力を付けてきた仲西が昨年9月の八重瀬町長杯に続き、決勝で美東を振り切った。後半はマンツーマン守備などで美東のエースを封じると、GKとの連係で間を割れない堅い守備を発揮し、ハーフコートへの攻撃で着実に点を重ねた。勝負強さを見せた選手たちに、涙もろい長嶺重信監督は「強敵美東にやるべきことができた」と目を潤ませた。

出だしは相手守備を崩せず、焦りから主将の田里優生子の「周りが見えてなかった」ようなシュートが外れる。全国を見越した3-2-1守備も相手に抜かれ先行を許したが、本来の横一線守備に切り替えたことで前半を同点で終えた。

ロッカーーム

後半、相手エースを抑えて連係を崩すことを確認した守備は、素早い出入りとパスのけん制で美東の足を止めていく。すると、GKの仲西香翔が好セーブからのロングパスで池間未之の速攻へつなげる。田里のマークが強くなると、沖縄市立室川小出身だが競技をやるために家族で浦添市に引っ越してきたという小浜葵菜里が「1点取れば流れが来る」と大きなステップを生かした突破力でチームに勢いをつけた。

美東も粘ったが、センターの比嘉柚葉が相手2人の間を抜ける好パスで右サイドの宮城陽稀のサイドシュートをアシストするなど、流れを逃さずに美東を振り切った。仲西の2年には浦城小時代に全国制覇した粒ぞろいの選手がそろそろ。同小でも主将だった田里は「悪い流れの時に攻撃が止まる課題を修正し、全国でも一戦一戦勝ち上がる準備をしていく」と力強く語った。

(嘉陽拓也)



優勝した神森男子の選手ら



優勝した仲西女子の選手ら



女子決勝 仲西―美東 後半、パスを受けシュートを放つ仲西の田里優生子